学位論文執筆体験談

平成26年３月修了生
元：生活・技術系教育講座　現：宇都宮大学等非常勤講師　**柴沼　俊輔**

１．自己紹介

学部から博士課程まで、東京学芸大学・同大学大学院の技術教育に関わる専攻に所属した。

私の博士論文「戦後日本における学校が行う職業紹介制度の成立」は、中・高校の教員が生徒の職業紹介（就職斡旋）を行う、という戦後日本独特の制度の成立史に関する研究である。この課題には、修士課程から取り組んできた。

２．博士論文執筆の過程

3年間を通して活発に学会発表や論文投稿に励んでいたわけではなかった。自分の処理能力の乏しさのせいもあり、同時並行で複数の研究を進めることをなるべく避け、ひとつずつ集中し確実に成果を積み上げることを優先した。

1年目に修士論文の内容を再構成して、同年度末に1本目の査読付論文の掲載が決定した。この業績が博論の柱となった。1年目にこの業績を固められたことがとても大きかった。

3年間で最大のエネルギーと時間を費やしたのは、博論の序論の執筆であった。この作業にはほぼ一年を費やした。思うように文章をまとめられない自分の無能さに何度も辟易したものの、長い時間をかけてじっくりと書きあげていったことで、これまでの研究とその意義をわがものとすることができたと思っている。

３．博士課程を通して学んだこと

(1) 研究環境（づくり）の大切さ

安心して研究を行うことができる環境を意識してつくることが大切である。ここでいう環境には、研究室等の物理的な環境もあるけれども、それ以上に、研究活動を支えてくれる人々との関係が重要であると思う。

まず、最も重要な要素は、指導助言を頂ける指導教員である。主指導教員をはじめとして多くの先生方に、研究室ゼミや学会発表、論文投稿前に手厚い指導を頂けた。当然ながら、こうした先生方との関係作りは重要である。研究指導以外でも、食事等の普段の行動にご一緒させていただくだけでも勉強になることが多かった。ただ、先生方の指導・助言の意図を正確に掴まぬままにしてしまった経験が多々あったことが心残りである。もう少し、学生らしくわからないことをわかるまで議論させていただく、という図々しさをもつべきだったと思う（先生方にとっては迷惑かもしれないが…）。

指導教員以外にも、自分の研究について議論できる人間関係を積極的に求めていくことは非常に重要である。私にとって、様々な立場の人に自分の研究について説明し、素朴な意見や疑問をぶつけてもらうことが、自らの研究に対する理解を深めるうえで大きな力となった。

また、やや観点が異なるけれども、学会発表や論文投稿、ゼミなど、意図的・定期的に〆切をつくり、それを厳守することも、ある意味重要な「環境づくり」であると思う。

(2) 学ぶ・究めることのおもしろさ

もともと論理構成力に長けているわけではない私にとって、それまでに収集した膨大な情報を再構成・論理立てて出力する作業である研究発表の準備や論文の執筆作業は、とてもつらい作業であった（である）。しかし、じっくりとたくさんの時間をかけてこれらの作業に取り組む過程で「この研究は、この作業は、どんな意味があるのか、どんな役に立つのだろうか」等、常に自問自答しながらその本質を見極めることを試み続けることにより、今まで積み重ねてきた知識や経験が相互に結びつき、おぼろげながらも、いま自分が取り組んでいる研究の意義やおもしろさを見出すことができた。

2012年度の連合大学院合同ゼミナールで、研究科長の岸学先生が「皆さんにとって研究はjoyですか、それともjobですか」と私たちに問いかけたことが強く印象に残っている。明らかに、私の研究活動の大半はjobである。しかし、そのjobの中にいかにjoyを見出すか。そうした姿勢の大切さに気づくことができたことは、私が博士課程で得た最大の成果である。

４．おわりに

一定の期限の中で博論をまとめることは、学位取得以上の意義があると思います。苦労する価値は絶対にあります。ぜひ頑張って下さい！

表　博士課程３年間の主な研究活動の経過

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
１年目 2011年度	【1本目】日本教育学会機関誌『教育学研究』への投稿論文に関する作業											
	○修論を再構成して5月に投稿				○査読コメントに応じて修正、9月に再投稿				○掲載決定をうけ、小修正と校正作業		79巻1号（2012年3月）に掲載	
	【2本目】日本産業教育学会機関誌『産業教育学研究』への投稿論文に関する作業											
	○先行研究の検討と資料収集。これらの成果を研究室ゼミ・外部の研究会で報告。											
２年目 2012年度	【2本目】日本産業教育学会機関誌『産業教育学研究』への投稿論文に関する作業											
	○投稿論文の執筆。2012年2月末の〆切りに間に合わず、2012年8月末に投稿。					○産業教育学会で発表		○査読コメントに応じて修正。2013年2月末に再投稿。				
	博士論文の執筆作業											
						○指導教員の助言をうけ、博論の序論の構想をぼんやりと考えはじめる。先行研究の再整理など。						
３年目 2013年度	【2本目】日本産業教育学会機関誌『産業教育学研究』への投稿論文に関する作業											
	○「論文」から「研究ノート」へと区分を変更して掲載可との査読結果を受け、小修正と校正の作業。				43巻2号（2013年7月）に掲載							
	博士論文の執筆作業											
	○2013年3月～9月：序論の執筆。何度も書きなおした。進まない時は、関連する研究分野の博論を何本も読んでいた。 ○10月22日：中間審査会。							○12月10日：博論提出。	○2月8日：博論審査会。		修了！	